

府中はハスのメッカなり(大賀一郎博士の足跡)

明治16年(1883年)4月28日岡山県吉備町きびちようで生まれた大賀一郎博士おおがいちろうは、岡山一中、第一高等学校を経て、東京帝国大学(現 東京大学)に入り明治42年(1908年)理科大学植物学科を卒業されました。

昭和20年(1945年)5月に中野の自宅を戦災で失い、同年6月から府中に住まれ、昭和40年(1965年)6月15日東大病院において病死するまで、蓮、まんだらぬのめぐら、布目瓦むさしこくぶんじがわら(武蔵国分寺瓦)などの研究を行いました。

昭和26年(1951年)に千葉県検見川けみがわで古代の丸木舟まるきぶねが発見された泥炭地でいたんちを発掘し、青泥層せいでのうから出土した2000年以上前の種子を府中で発芽させ、翌年7月に開花させました。このことは、報道各社が取り上げ、国外では11月17日付米国ライフ誌に掲載され、「二千年蓮」「大賀蓮」として世界に知られることになりました。

大賀博士はこのほか、孫文蓮そんぶんれん、ネール蓮ねるれん、妙蓮みょうれん、など二十数種の花蓮はなはすを自宅、市立第一小学校内及び中央公園(現 寿中央公園)などで育成し、各地ぶんこんに分根されました。

昭和34年(1959年)8月9日には、妙蓮みょうれんの開花を記念して、中央公園(現 寿中央公園)ハス池前で第1回観蓮会かんれんかいが行われました。

妙蓮みょうれんは、大賀博士が昭和33年(1958年)5月に国の天然記念物である金沢市の持明院じみょういんの非常に珍しい蓮を移植したもので、ピンクの蕾つぼみは普通の蓮に似ていますが、中からいくつかの花が並んで現れることから「多頭蓮たとうれん」の名があります。この花の花弁数かべんすうは、合計3000枚から6000枚になりますが、花のまま枯れてしまいます。

府中市では、昭和48年(1973年)3月に中央公園(現 寿中央公園)から市民健康センター(現 郷土の森公園)修景池に大賀蓮、妙蓮みょうれんなど各種の蓮を移植しました。

現在、郷土の森公園修景池には、大賀蓮をはじめ30種類の花蓮はなはすが植えられています。

開花は、6月中旬から9月上旬ですが、見ごろは6月下旬から8月中旬の朝10時頃までです。

終日、無料で観賞できますので、ぜひ、優美で気品のある姿をお楽しみください。



大賀一郎博士



二千年蓮と大賀博士